

鋼構造委員会に下記の研究小委員会を発足させることになりました。積極的に活動に参加して下さる委員を募集します。奮ってご応募ください。なお、本委員会は委員会出席のための旅費等は支給されません。

- 委員会名称

道路橋床版の点検診断の高度化と長寿命化技術に関する小委員会

- 提案者：鋼構造委員会幹事会

委員長：橋 吉宏（中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋㈱）

幹事長：塩永 亮介（㈱IHI）

- 委員会設立の趣旨、目的および活動内容

道路橋床版の第五期目の小委員会「道路橋床版の複合劣化に関する調査検討小委員会（H25.5～H28.4）」では、輪荷重の疲労による損傷に加え、塩害、凍害、ASR（アルカリシリカ反応）、中性化による複合劣化も対象とした「道路橋床版の維持管理マニュアル 2016（鋼構造シリーズ 27）」、および「道路橋床版防水システムガイドライン 2016（鋼構造シリーズ 28）」を成果として取り纏めました。これらの刊行物は、各管理機関における 5 年に一度の橋梁点検と長寿命化修繕計画の維持管理サイクルで、重要な情報を提供できるものと期待しています。

一方でわが国では、凍結防止剤に頼る雪氷管理、ASR の原因となる反応性骨材が全国的に分布すること、建設後 50 年を超える橋梁の割合が増えることによる中性化問題の顕在化など、今後は凍害を含めて複合劣化による損傷事例がさらに増えることが予測されています。これらの床版損傷は米国の状況と類似するところがあり、米国では床版の維持管理サイクルの方向性として、床版取替えに至る前の床版損傷の早期把握と適切な延命化・長寿命化対策により、維持管理費を大幅に節約しようとしています。

この方向性はわが国でも同様であると考えられ、第六期目の道路橋床版に関する小委員会では、疲労に加え複合劣化を対象とした①点検診断技術の効率化と高精度化、②更新や修繕の判断・評価方法、③新材料や新工法の適用による延命化・長寿命化技術について調査を行い、維持管理サイクルの PDCA をまわす上で有用な成果物をまとめる予定です。ここで延命化・長寿命化技術とは、コンクリート橋面舗装を含む舗装構造や、床版防水システムを代表とした防水・排水性向上の技術など、既設床版のみならず新設床版にも適用できる技術も対象とします。

- 活動方法

小委員会の下に各技術課題に沿った分科会または WG を設置します。活動方法として、全体委員会を 3～4 ヶ月に 1 回、その間に分科会・WG の活動を適宜開催いたします。また有識者による講演会や現場見学会なども企画していくほか、定期的で開催している「道路橋床版シンポジウム」も継続し、小委員会の成果報告や一般論文公募も実施していきます。

●活動期間

3年間（2017年5月～2020年4月）

●公募の締切日

2017年3月31日（金）

●応募方法

本委員会に委員として参加を希望する方は、1)氏名、2)年齢、3)所属、4)連絡先（住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス）、5)特にご興味のある事項等について、下記の応募先までE-mailにてご連絡ください。応募の際のメール題目は「道路橋床版の点検診断の高度化と長寿命化技術に関する調査研究小委員会」とご記入ください。

なお、20～30名程度の委員構成を予定しております。応募者数によっては本委員会に参加いただけない場合もございますので、あらかじめご承知おきください。

<応募先・問合せ先>

（株）IHI 技術開発本部 基盤技術研究所 構造研究部  
塩永 亮介（幹事長）

TEL：045-759-2864 FAX：045-759-2352

E-mail：riyousuke\_shionaga@ihi.co.jp